

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム福寿草Ⅱ(太陽ユニット)	評価実施年月日	平成20年4月1日～平成20年5月1日
評価実施構成員氏名	石川 あゆみ・大久保 加奈・漆崎 愛・石川 裕子・井元 寛子・岩崎 喜美子		
記録者氏名	石川 あゆみ	記録年月日	平成20年5月31日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念にのっとり地域に根ざしたホーム作りをこころがけている。	○	お一人お一人がホームの中だけでなく、この地域で共に生きていく、暮らしていく、という実感が持てるよう地域の方とのコミュニケーションをはかるよう工夫している。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	何か課題などがあると必ず理念にてらしあわせ考えるようにしている。また、心に理念をかかげ日々取り組んでいる。	○	入社時に社の理念を学び社内の研修においては、理念に準じて行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族には重要事項説明書を手渡し、説明している。開設時に、地域住民の方に、内覧会を行い日常のケアを説明している。	○	散歩や町内会の行事などを通してより理解をふかめていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	お互い挨拶しあい、立ち止まり世間話をしたり庭のお花を頂いたりなど、交流がある。	○	通勤や、ホームでの買い物や、様々な町へ出る機会を全て活かして、お互いの生活を支えあえる関係をつくってまいりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	お祭りなどの行事に積極的に参加し、交流を持っている。	○	行事に乗らせてもらい、参加しているので、地域の情報をもっともって、参加することのみならず出来る限りの協力をもっていけるようにしていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域のとりくみとしての介護予防、認知症講座とうに参加している。また、地域運営推進会議にて今後の動きを検討している。	○	もっと、日常を活かしスタッフ一人ひとりと意識をもって、地域に根ざしたホーム作りをより日常的なものにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	主観的、客観的な観点での評価をもとにスタッフ間で話し合い、よりよいホーム作りに挑戦している。	○	課題を具体的、迅速に日常の改善点に反映していくために、ユニット会議で話をしている。
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、うかがったご意見より日常に反映させている。	○	取り組みに対して、スタッフ一人ひとりに意見を聞き、意識をよりいっそう高めていきたい。
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市と連携をとり、事業所としてできることを提供している。また、サービスの向上にも取り組んでいる。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	スタッフ間で学ぶ機会を設けており、また、必要に応じて利用ができるよう支援している。		
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について学ぶ機会をもうけ、また日常の意識も高めている。理念に準じたケアにより、虐待を起こさないケアを提供できるような基盤を作っている。		
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談の時点からしっかりと、御家族、お年寄りの不安材料についてしっかりと話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎日お年寄りの状況をアセスメントしており、不満や苦情について理解できるように取り組んでいる。また、御家族にもお年寄りがどう感じているのか伺えるようお願いしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族に月に一度手紙を郵送している。また、状況によってはお電話を入れている。来訪された際、御家族ノート、日常の記録を見て頂き、状況を知って頂けるように取り組んでいる。定期的に出入帳の写しをお渡ししている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の際、伺えるようにしている。また、直接言いにくい場合は家族ノートに記入し頂いている。また、外部の苦情処理の機関への連絡先を随時お伝えしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員一人一人の意見を大切にしている。状況により、具体的にスタッフから聞き、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	お年寄りが暮らしを築いていくのに、支えていけるよう時間を確保できるように取り組んでいる。また、勤務の調整をし、よりお年寄りの暮らしがよりよくなるよう挑戦している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できるだけ、ダメージが少なくすむよう、一度に沢山のスタッフの移動を避けている。また、今いるスタッフがお年寄りとの人間関係をより深く、築いていけるよう日々のケアで取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤続年数でわけての定期的な研修を実施。年間の研修計画によって、行われている。また、外部の研修にも積極的に参加。	○	より具体的な場面での理解が深められるように、日常的な学びを深められるように更に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会の機会において同業者と交流する機会を持っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	余計なストレスを生まないための、研修による対象者の理解を進めている。日常のスタッフ間での交流でストレスの軽減をはかっている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	研修への参加、ユニット会議において話し会の機会を持つ事により向上心を持って働けるよう勤めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人のことをしっかりと見つめ、どういった状況かアセスメントしている。また、日々の中で信頼関係を築いていけるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談の時点からしっかりと、御家族、お年寄りの不安材料についてしっかりと話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談の時点で、お年寄りがどう暮らしていきたいのか、話を伺いながら、どうしていく事がご本人を支える事になるか話し合っており対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居相談の際、ホームに遊びにきていただく。また、何度もそのことを繰り返し馴染みになっていただくこともある。また、どうしたらご本人が一番なじめるか御家族とじっくり話してから、入居を迎える。	○	入居される時の迎え方、どうしたらお年寄りが喜んで入居して頂けるか、徹底的に考え、対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として敬意を持って接し、人と人との人間関係を大切に日々の生活を共に作り上げている。ケアする側される側ではなく、共に暮らしを築く共同作業を繰り返している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族には、様々お年寄りをホームを支えてくださっている。ともに、沢山の事を笑い合ったり泣いたり、共にここでのケアを作り上げて頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの人間関係をしっかりと把握し、本人や家族にとって一番良い形におさまっていけるよう、必要な支援をしている。	○	お年寄りの御家族への思いをしっかりと御家族にお伝えし、また御家族のお年寄りへの思いもうかがい、代弁をしお互いの理解を得られるように取り組んでいる。また、それぞれの御家族が悔やんだり、辛い思いばかりが募る事のないように、しっかりとお話を伺っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お年寄りにとって、大切な人や、場所とのつながりが切れる事のないよう、御家族とも協力頂き支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お年寄り同士の関係には常に注意し、円滑な関係がもたれるよう介入が必要な場合速やかに入っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス提供が終了したさい、御家族との連絡が取れている方もいる。また、必要があれば連絡をとっていくことができる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今どうしたいか、これからどうしたいか、を伺う。常にお年寄りがどう感じているのかという視点で考え支援に取り組んでいる。	○	御家族にもご協力頂き、こまかなご本人の仕草や表情から、どう感じているのかを教えて頂いている。また、以前にどうお話をされていたのかを聞き今のケアに反映している事もある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートをいかし、これまでどのような生活を送っておられたのか、を詳しく教えて頂く。また、日常の暮らしの中で気がついた際、ご本人や御家族に確認してケアに生かしている。	○	どうしたら、ここちよい生活が送れるか、と考えるとどういう日常をおくっていたのか、ということが把握されていないと難しいため、御家族にはその再現のために沢山ご協力をいただきケアに結びつけられるよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	それぞれのスタッフが感じられるよう、お年寄りをしっかり観察している。また、いつでも話し合い、情報を共有できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	事業所には、介護支援専門員が常勤しおり、御家族ご本人と相談しながら介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的なケアプランの作成、見直しを行うと共に、状況に応じてすぐに新たにプランニングしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の一人一人の記録をつけ、スタッフ間で必ず共有できるようにしている。また、特にケアの中で統一していきたい事は、スタッフ用のノートに記入し共有をはかっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その方の、その時の状況に応じて、出来る限りの対応をさせていただいている。	○	外出の支援など、御家族だけでは難しい際、スタッフも付き添うなどの対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご本人が持っている資源を生かして、ここでの暮らしを築いている。また、あらたに開発しながらホームでの生活を作ってきている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご本人や家族の要望により、ご本人が他のサービスを必要としている状況の際、対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	直接的にお年寄りの支援の中で、地域包括との連携を必要としたケースがまだない。しかし、状況により必要であれば、すみやかに連携をとらせて頂く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得がえられたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の定期往診を月2回受け、健康管理を行っている。又、本人や御家族の希望や必要に応じ、専門医受診の支援も行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医師と連携をとり、いつでも連絡相談を受けられるよう連携をとっている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として、看護職員を常勤しており、日常の気付きを生かし、健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかっている医療機関には認知症の理解を深めて頂き、すみやかな対応をして頂いている。また、医療機関のスタッフにも理解して頂けるように、取り組んでいる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の段階で、最終段階での医療やケアについての取り組み、どう看取っていきたいか、ということ話を話している。御家族の思いをしっかりと伺っている。またご本人にも出来るだけ聞き取っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期を迎えられるよう、ご本人の希望によってではあるが、医療との連携を築いており、また、チームとして支えていけるような支援体制が組まれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	よりリロケーションダメージがおこりずらいように、御家族と充分に話し合い努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人一人のお年寄りに敬意を持って接している。また、記録を外部にふれる事の内容、管理保管をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	できることや、やりたいことが実現できるように、アセスメントし環境を整えている。また、自分で判断できる場面を作っていけるよう努めている。	○	お年寄り一人一人の気持ちに充分にそって、具体的に一つ一つの物事の中でどうしていききたいのかをじっくりと考え取り組んでいけるよう挑戦している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にしている。日常の中で、どうしたら心地よく過ごして頂けるか常に考えて対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日お化粧をしたり、着る服を選んだり、好みのおしゃれが出来るような場面を支援している。また、そのために本人の好みを把握したり、必要な物や資源を用意したりなど、御家族にも沢山ご協力頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれのお年寄りの状況に応じ、食べやすく美味しく食べて頂けるよう毎日アセスメントしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の体調や状況にあわせて、好みのものが食べられるように工夫している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の状況に応じ、必要な支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	お年寄りがどうしていきたいのか、を出来る限り把握し入浴の支援をしている。ただし、入浴に対しての動機が低くなっている場合、こちらで動機をつくって心地よい入浴を提供できるよう工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一日の活動と休息のリズムを作り、休みたい時には休んで頂けるよう支援している。	○	一日のリズムがお年寄りのリズムにすぐ反映されるので、十分に気をつけ、出来る限り日光を浴びて過ごせるように取り組んでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の歴史にあった、時間のすごしかたを提供できるように取り組んでいる。また、一人一人のやりたい事の把握により生活に張りを生めるよう取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使う、持っている事が本人の社会とのつながりの中で必要であることを充分に把握し、一人一人の状況に応じ、もっていれるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人一人の必要に応じ、外出の支援が行われている。事業所の中だけではお年寄りの生活を支える事ができないため、家族にもご協力頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族ともご相談し、本人が必要としている外出の支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じ、必ず対応している。また、自発でこうしたい、とお年寄りから具体的に言う場面がないとしても、必要がある、と職員で判断した場合、連絡を取っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間や居室が過ごしやすい雰囲気となるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	お年寄りに対し身体拘束はいっさいしていない。身体拘束に関して、スタッフに周知徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中の施錠はしていない。夜間の施錠はしている。チャイムなどで気づけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	どんな場面でのどんな状況が危険であるか、を一人一人のお年寄りの状況から判断できるよう学びの場を設けている、また、その上での観察を徹底し安全に過ごし頂けるよう努めている。	○	お年寄りの今の身体状況、認知症の状況の把握がものをいうため、毎日アセスメントをしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	今のお年寄りの能力に応じて、ひつような支援をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故を起こさないための具体的な工夫と、万が一そうってしまった際の対応について、学び合っている。火災などは、避難訓練での具体的な動きを知る事や、消防センターでの研修などスタッフ一人一人がしっかりと把握し、対応できるよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応マニュアルがあり、それに順じお年寄りへの対応を速やかに行えるよう、取り組んでいる。	○	より具体的な場面でのシュミレーションを常時行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者の指導の元毎日避難経路の確保、防災のための心構えを作っており、定期的に避難訓練を通し、具体的な対応について方策をシュミレーションできるよう取り組んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人一人の生活を支えている中で見えている危険性をしっかりとケアプランに反映し、御家族にその旨説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
○体調変化の早期発見と対応 73 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	どんなに些細な事でも、異変を感じたら速やかに報告することを徹底している。		
○服薬支援 74 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬カードを職員全員が目を通し、理解に努めている。		
○便秘の予防と対応 75 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	状況に応じて下剤の調整を行い、牛乳やヨーグルトなどの乳製品の摂取など食事の中での工夫もしている。体を動かしていく事も活動を通して取り組んでいる。		
○口腔内の清潔保持 76 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は歯磨きをしている。義歯を利用されている方には、よごれが速やかに取れるよう対応している。		
○栄養摂取や水分確保の支援 77 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事については専門のスタッフがバランスを考え、またお年寄りの状況を踏まえ食事を提供している。一日で見て、一人一人に必要な提供ができているかを判断している、		
○感染症予防 78 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)。	対応のマニュアルがあり、周知徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理をしっかりとし、食中毒の予防に努めている。食材についても安心できるものを厳選し購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム全体が民家と変わらない外観をしており、親しみやすい物となっている。また、庭の手入れなども御家族にご協力頂きながら作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所は、対面キッチンになっており、常に調理している様子がお年寄りに感じられるようになっている。季節にあった飾りなど工夫をこらしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやソファなど状況に応じて使い分け、落ち着いて過ごせるよう配慮している。場合によっては、和室を使用している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具を持ち込み使用してもらったり、配置を以前の家の配置とにしているようにするなど配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計を設置しこまめにチェックしその都度温度調節、換気を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物の中には、それぞれのお年寄りにとって体を充分生かしていけるよう必要最低限の手すりや環境としている。また、ホームの作りが安全を確保できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できること、できないことの見極めをし、出来ない事は無理して行わないようにし、出来る事に関しては充分に発揮して頂けるように環境を整えている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や庭の手入れをし、一緒に眺め収穫したり、天気の良い日にはベランダで日光浴をしたりしている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③利用者の1／3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	②少しずつ増えている
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②利用者の2／3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②家族等の2／3くらいが
【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 認知症で困っている人が自由にそして最後のときを迎えようとしているときを大事に過ごしている。また、残された時間をより充実できるよう、心に寄り添うケアを実践している。		